

困難女性支援 × はじめの 100 か月の育ちビジョン

子どもの育つ姿から、私たちの生きる道筋を探そう

～すべての人の中の「子ども」がひびきあう世界へ～

日時：2026 年 2 月 10 日（火）13 時～14 時半

場所：上尾公民館 501・保育：401（上尾市ニツ宮 750）

講師：山口有紗さん（小児科医・小児科こどものこころ専門医）

定員：会場参加 50 人 参加費：無料 ※講師は 14 時半までオンラインで講演を行います

対象：子育て中の方・子育て支援に関心のある方

保育：要事前申込み（1 人につき 300 円）

申込み方法：右の QR コードまたは下記連絡先の電話・メール

講演会終了後～15 時半：「地域でのつながりをつくろう」



講演会・保育
申込み
フォーム

「はじめの 100 か月の育ちビジョン」ってなあに？

こども家庭庁から出された、赤ちゃん子どもや養育する人の権利を保障し支えるビジョン。山口有紗さんは、どのようにとらえているのでしょうか。

赤ちゃん・子どもはどう生きているの？どう育つの？

山口有紗さんが診察室で子どもたちから教えてもらったことや、最新の脳科学研究等から、改めて子どもの育ちを知っていきます。

子どもたちが安心して成長できて、必要な時には SOS を出せたり、その子の中のレジリエンス※が育っていったほしい。また、そんな状態に気づける関係でありたいと親たちは願う。

※レジリエンス：さまざまなつらさ(ストレス)に対して、それを跳ね返す力、弾性、しなやかさ

自分だけの力で生きていくのは難しい子どもたち。

けれども、親や家族に SOS を出してくれるとは限らないのではないだろうか。

子どもたちは親思い。親だからこそ、言えなかったりするかもしれない。

コミュニティ・レジリエンスを持つ街に――

子どもに限らず、女性も、何かあれば、たちまち生きるのが困難な状況に陥ります。妊娠を誰にも言えず、人知れず出産し、赤ちゃんが命を落としてしまうことも。相手の男性にとっても、それはどんなことなのでしょう。そんな悲しい事件が起こらないように…。

たまたま運よく生き延びられた、というのでなく、誰もが幸せに生きられるように…。

誰もが、誰かのレジリエンスになりうるのだからー

どんな状況にある人も、支えられたり支えたりしながら、安心して生きていける、そんな街をみんなで作りたい。

大人になった人たちが、ひとりひとりの中にある「こども」に出会うことから、目の前で困っているその子、その人の側に立つことができるのかもしれません。

子どもたちの生き方から教えてもらいましょう。

一緒に、考えてみませんか。



講師：山口有紗さん プロフィール
小児科専門医・子どものこころ専門医、公衆衛生学修士。高校中退後、イギリスでの単身生活や国際関係学部での学びを経て医師となる。現在は子どもの虐待防止センターに所属し、地域の児童相談所などで相談業務に従事。国立成育医療研究センター共同研究員、こども家庭庁アドバイザー。近著は「子どものウェルビーイングとひびきあう――権利、声、「象徴」としての子ども」（明石書店）、「きょうの診察室：子どもたちが教えてくれたこと」（南山堂）。

【お申込み・お問い合わせ】

認定 NPO 法人彩の子ネットワーク

住所：〒362-0014

上尾市本町2-13-8根貝戸団地 1 階

電話：048-770-5272

FAX：048-770-5270

メール：office@sainoko.net

講演会・保育申し込みフォーム→

